

Flash Report

2017年12月8日発行

「ラッセル・インベストメント外国株式マザーファンド」 運用会社の変更について

このたび、「ラッセル・インベストメント外国株式マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)において、運用会社構成と目標配分割合の変更を行いました。(変更日:2017年12月8日)
これまで採用していた運用会社5社のうち4社を解約する一方、新たに5社を採用して計6社体制とするとともに各運用会社への目標配分割合を変更しました。

<運用会社構成と目標配分割合>

運用会社 (外部委託先運用会社/投資助言会社) ^(注1)	運用スタイル	目標配分割合(%) ^(注2)	
		変更前	変更後
マッキンリー・キャピタル・マネジメント・エル・エル・シー《米国》 (以下「マッキンリー」といいます。)	グロース型	15.0	—
サステナブル・グロース・アドバイザーズ・エル・ピー《米国》 (以下「サステナブル・グロース」といいます。)	グロース型	15.0	—
ハリス・アソシエイツ・エル・ピー《米国》 (以下「ハリス」といいます。)	バリュー型	15.0	—
エムエフエス・インスティテューショナル・アドバイザーズ・インク《米国》 (以下「MFS」といいます。)	マーケット・ オリエンテッド型	30.0	—
ニューメリック・インベスターズ・エル・エル・シー《米国》 (以下「ニューメリック」といいます。)	マーケット・ オリエンテッド型	25.0	22.5
フィエラ・キャピタル・インク《米国》 [投資助言] ^(注3) (以下「フィエラ」といいます。)	グロース型	—	15.0
モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インク《米国》 [投資助言] ^(注3) (以下「モルガン・スタンレー」といいます。)	グロース型	—	15.0
サンダース・キャピタル・エル・エル・シー《米国》 [投資助言] ^(注3) (以下「サンダース」といいます。)	バリュー型	—	20.0
ジャンナス・キャピタル・マネジメント・エル・エル・シー《米国》 [投資助言] ^(注3) (以下「ジャンナス」といいます。)	バリュー型	—	15.0
ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ・エル・エル・シー《米国》(以下「RIIS」といいます。)	ポートフォリオ特性 補強型	—	12.5

(注1)「運用会社」について、運用の指図にかかる権限を委託する運用会社を「外部委託先運用会社」、外部委託先運用会社が投資助言を受ける会社を「投資助言会社」ということがあります。

(注2)「目標配分割合」とは、運用会社を組み合わせる際に目安とする配分割合をいいます。

(注3)各投資助言会社の投資助言に基づき、RIISが運用の指図を行います。

以下、今回の運用会社構成変更の目的につきまして、ご説明いたします。

運用会社構成変更の目的

➤ より確信度の高い運用会社の採用

ラッセル・インベストメントでは、運用会社の継続的な調査・評価を通じて、ファンドで採用している運用会社への確信度が低下した場合や、新たにより優れた運用会社を発掘した場合には、必要に応じて運用会社構成の変更を行います。また、運用会社の運用能力自体に変化がない場合においても、市場の構造・特徴の変化や投資手法の進展を機に運用会社構成を変更することもあります。

このたび、ラッセル・インベストメントが高く評価する運用会社の更なる発掘が進んだことから、運用会社構成を見直し、より確信度の高い運用会社構成に変更することとしました。また、株式等の取引の効率化や取引コストの削減を図るために、運用会社からの投資助言を基にRIISが運用を行う手法を中心とした構成に変更しました。これにより、今後の運用会社構成や目標配分割合の変更をより柔軟かつ効率的に行うことができるようになります。

➤ マルチ・マネージャー運用の進化

優れた運用会社の中には、多彩な運用戦略を用いて際立った特徴を有するポートフォリオを構築する運用会社が存在します。こうした特徴のある運用会社を組み合わせることでファンド全体のポートフォリオを構築する場合、中長期的により安定した超過収益の獲得を目指すポートフォリオを構築できないことがあります。そこで、他の運用会社の運用戦略の特徴を活かしながら、マザーファンド全体としてのポートフォリオ特性を補強するために必要な運用戦略を特定し、RIISがその運用を担うことでファンド全体の補強を図ります。

➤ 新たに採用する各運用会社について

より確信度の高い運用会社に入れ替えることで、より高く安定した超過収益の獲得を目的としています。

■ フィエラ[グロース型]

グロース型のフィエラは2003年に設立され、今回採用するグローバル株式グロース運用チームはカナダ・モントリオール市を拠点としています。

ROIC(投下資本利益率)やROE(自己資本利益率)、EVA(経済的付加価値)を重視して、高クオリティで合理的なバリュエーションを備えた成長性の高い銘柄をボトムアップ・アプローチで選別します。また、ファンダメンタルズ分析では、企業の持つ競争力や参入障壁、経営陣の質などを重視します。

■ モルガン・スタンレー[グロース型]

モルガン・スタンレーのグローバル株式グロース運用チームは米国ニューヨーク市と香港を拠点としています。

ROICやフリーキャッシュフローに着目し、長期的な視点から、独自の競争力を持ち、成長性が期待できる銘柄を選別します。ベンチマークはあまり意識せず、新興国株式を含め、比較的銘柄数を絞ったポートフォリオを構築します。

■ サンダース[バリュー型]

バリュー型のサンダースは、以前アライアンス・バーンスタインの Chairman/CEO を勤めていた Lewis Sanders 氏によって 2009 年に設立され、米国ニューヨーク市を拠点としています。

グローバルな視点から投資テーマを的確に踏まえて個別銘柄を分析し、当該企業の持つ本質的企業価値に対して大きく割安であると判断する銘柄を選別します。

■ ジャナス[バリュー型]

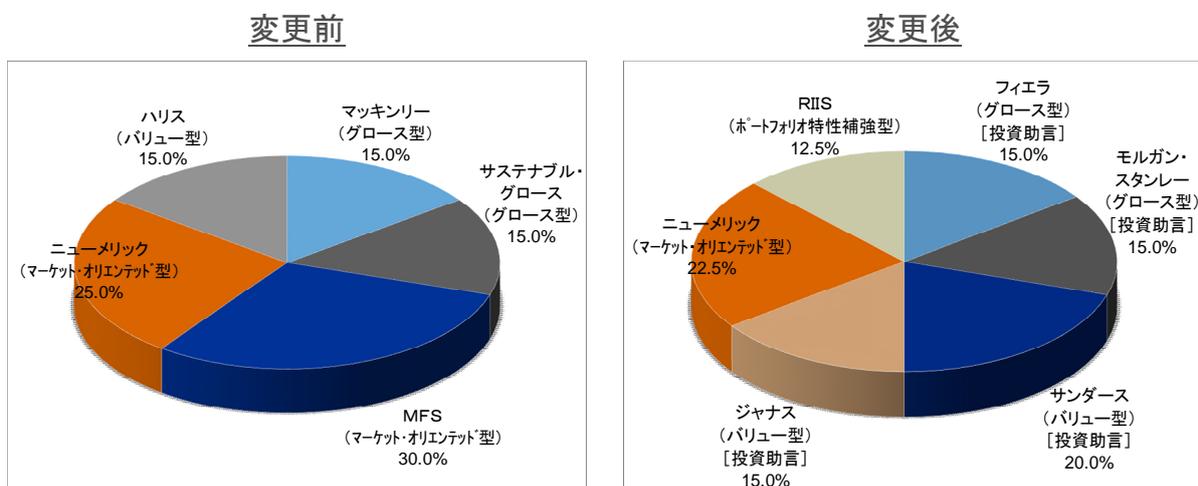
今回採用するのは 2013 年にジャナス・グループ(現ジャナス・ヘンダーソン・グループ)傘下となった旧パーキンス・インベストメント・マネジメントの運用チームです。同運用チームは米国シカゴ市を拠点としています。

PER(株価収益率)やPBR(株価純資産倍率)、PCFR(株価キャッシュフロー倍率)等のバリュエーション指標に加え、財務健全性やキャッシュフローの堅実性を重視するなど、株価のダウンサイドに留意したバリュー運用を行います。

■ RIIS[ポートフォリオ特性補強型]

RIIS は、委託会社が必要と判断した場合にマザーファンドの一部について運用を行います。当該部分においては、採用している他の運用会社の運用戦略の特徴を活かしながら、マザーファンド全体としてのポートフォリオ特性を補強するために必要なファクター(バリューやクオリティ、モメンタム、低ボラティリティ、高配当など)の運用を行います。

各運用会社への目標配分割合



(注)上記の運用会社(外部委託先運用会社/投資助言会社)および目標配分割合は変更されることがあります。

今回の運用会社構成の変更は、ラッセル・インベストメント グループの継続的な運用会社調査の結果に基づくもので、マルチ・マネージャー・ファンドならではの特徴の一つです。

ラッセル・インベストメントのマルチ・マネージャー・ファンドでは、皆様の投資目標の実現を図るため、今後も状況の変化等に応じて、適切な運用会社構成の変更等を実施してまいります。

「ラッセル・インベストメント外国株式マザーファンド」を主要投資対象とする公募ファンド

- ラッセル・インベストメント外国株式ファンド(DC向け)
- ラッセル・インベストメント外国株式ファンド(愛称:ワールド・プロフェッショナルズ[®])
- ラッセル・インベストメント・グローバル・バランス(安定型/安定成長型/成長型)(愛称:ライフポイント[®])

※当資料においてご説明するファンドは、ファミリーファンド方式により運用する当社設定の投資信託の主要投資対象である親投資信託(マザーファンド)に係わるものです。マザーファンドには直接ご投資できません。

以上

Copyright © 2017. Russell Investments. All rights reserved.

当資料中「ラッセル・インベストメント」は、ラッセル・インベストメント グループの会社の総称です。

ラッセル・インベストメントの所有権は、過半数持分所有者のTAアソシエーツおよび少数持分所有者のレバレンス・キャピタル・パートナーズとラッセル・インベストメントの経営陣から構成されています。

フランク・ラッセル・カンパニーは、当資料におけるラッセルの商標およびラッセルの商標に関連するすべての商標権の所有者で、ラッセル・インベストメント グループの会社がフランク・ラッセル・カンパニーからライセンスを受けて使用しています。ラッセル・インベストメント グループの会社は、フランク・ラッセル・カンパニーまたは「FTSE RUSSELL」ブランド傘下の法人と資本的関係を有しません。当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。ラッセル・インベストメントによる事前の書面による許可がない限り、資料の全部または一部の複製、転用、配布はいかなる形式においてもご遠慮下さい。

◎投資信託にかかる投資リスク

投資信託の基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きや為替変動等による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資信託では、投資者のみなさまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

投資信託は、投資信託毎に、投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、投資リスクの内容や程度が異なります。ご投資にあたっては、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

◎投資信託にかかる費用

【ご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。】

■直接にご負担いただく費用

申込手数料: 上限3.78%(税込)

信託財産留保額: 上限0.3%

■投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

運用管理費用(信託報酬): 上限2.052%(税込、年率)

諸費用(監査費用、目論見書の作成費用、運用報告書の作成費用等): 上限0.108%(税込、年率)

■その他の費用

上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

※「その他の費用」については、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

※ご負担いただく費用等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載している投資リスクや費用については、一般的な投資信託を想定しております。費用につきましては、ラッセル・インベストメント株式会社が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する各費用における最高の料率を記載しています(当資料作成日現在)。投資信託にかかる投資リスクや費用は、投資信託毎に異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

◎その他の留意点

- 当資料はラッセル・インベストメント株式会社が設定・運用する投資信託に運用上の変更があった場合等において、情報の提供を目的として作成するものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託の購入のお申込みにあたっては、必ず最新の投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社でお受取りになり、内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。
- 当資料の中で掲載されているコメント等は当資料作成時点のものであり、将来の投資成果や市況動向等を保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。
- 投資信託は、預金、保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 金融商品取引業者(従来の証券会社)以外の登録金融機関でご購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 法令・税制・会計方法等は今後変更される可能性があります。